

17. 副腎腫瘍

○

○:専門とするがん △:グループ指定により対応しているがん ×:診療を実施していないがん
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制
 ○:あり △:グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×:なし ○

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数	治療の実施状況(○:実施可/×:実施不可) /昨年実績(あり/なし)※平成25年1月1日~12月31日			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ							
	主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を 専門として いる医師数		手術	化学療法	放射線療法 体外照射	ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容			
					治療内容	治療実績	医師の 専門 分野					
1 泌尿器科	6	4	状況	○	○	○	良性腫瘍はほぼ全例、転移性副腎癌も積極的に腹腔鏡で行なっています。	ア	http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/outpatient/hinyokika/index.html	掲載なし	掲載なし	掲載あり
			実績	あり	なし	なし		イ	http://			
2 放射線科	6	6	状況	×	×	○	内科、外科等各科主治医との連携のもと、患者様の診断から治療までをトータルに考え、日々の診療に取り組んでおります。	ア	http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/outpatient/housyasen/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし		イ	http://			
3			状況					ア	http://			
			実績					イ	http://			
4			状況					ア	http://			
			実績					イ	http://			
5			状況					ア	http://			
			実績					イ	http://			

グループ指定を受ける施設との連携状況
 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること

例: 褐色細胞腫、副腎皮質がん
 褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、転移性副腎がん